

種なし巨峰・ピオーネ・藤稔の房づくり講習会資料

平成26年5月
果樹技術普及センター

1. 新梢管理

- ①展葉7～8枚頃にできるだけ新梢を揃える。
- ②3. 3㎡当たりの新梢数の基準は、20～25本とする(7尺5寸間:30～33本)。
- ③適正樹相の目安は、ピオーネで開花始めに80cm前後で巨峰はピオーネよりやや強めとする。
- ④新梢がかけやすいので一斉に誘引を行わず、順次実施する(特に藤稔)。

2. 摘房

- ①穂軸がスラツとし、房尻の正常なものを使用する。
- ②基本は、1新梢1房に摘房する。
- ③第1・第2花穂に関係なく、3. 3㎡当たり20房以下にする(7尺5寸間:30房以下)。

〈アグレプト液剤の散布〉□

散布時期	展葉9～10枚時まで	(注意点)
散布濃度	アグレプト液剤1,000倍	・アグレプト液剤は、農薬混用可能である。 ・種ありぶどう及びびも・ぶどうを除く果樹(特にオウトウ)の隣接園では、浸漬処理とする。
	(水100ℓ当たり100cc)	

※ 特に藤稔は、種が入りやすいので、必ずアグレプト液剤を利用する。□

3. 房づくりのポイント

開花が始まったら

- ピオーネで 3.5cmを厳守 …… 房尻は、摘まない。
- 巨 峰で3.5～4cmを厳守 …… 房尻は、かるく(2～3粒)摘む
- 藤 稔で 3.0cmを厳守 …… 房尻は、摘まない。

◆目標果房重

巨 峰 : 500g
ピオーネ : 550g
藤 稔 : 550g



支梗が水平になる部分

ピオーネ : 3.5cm
巨 峰 : 3.5～4cm
藤 稔 : 3.0cm

◆房づくり時に新梢の伸びの旺盛な新梢(100cm以上)は、先端を軽く摘心する。

〈第1回目ジベレリン処理〉

- ①時期は、房づくりした花穂が咲ききった時
- ②蕾がある房は処理しない
- ③種が入りやすいので注意する(特に藤稔)

巨 峰 25ppm(錠剤で2ℓに2粒) 加用フルメット液剤 5ppm(2ℓに10cc)

ピオーネ・藤稔 12.5ppm(錠剤で2ℓに1粒) 加用フルメット液剤 2～5ppm(2ℓに4～10cc)

- ※ 1)フルメット液剤のピオーネ・藤稔では、樹勢や果粒肥大に応じて調整する。
2)処理は再処理防止のため早朝から午前中に行い降雨が予想される場合は、カサかけを行う。□